



令和7年度第6号（通算370号）  
一佐西学校だより  
令和7年9月25日発行  
〔発行責任者〕  
長崎県立佐世保西高等学校長 本村 暢子

## 「梓」が創造性を刺激する

校長 本村 暢子

体育大会・西高祭の前期2大行事が終わり、学校全体が充実感が満ちたような感じがしています。いずれの行事においても、準備から本番、振り返りまで、ある時はリーダーとして、ある時はフォロワーとして、仲間とともに数々の試練や壁を乗り越えながら、西高生がまた成長し、自治の力を高めました。

まず体育大会では、すべての競技・演技において皆が全力投入し駆け抜ける、清々しいスポーツマンシップを体現していました。最後に順位はつきましたが、応援合戦ものぼりも、3ブロックそれぞれに工夫と見せ場と迫力があって、見ごたえ十分、甲乙つけがたい出来栄で、準備や練習を相当重ねたのだらうと感じ入りました。

続いて西高祭。今年度から実行委員を中心に生徒が一から企画して回すというスタイルで規模を拡大し、バラエティに富んだ展示や発表が回り切れないくらいにあちこちで行われ、大盛況でした。あいにくの雨模様でしたが、昨年度よりも多くの方が来校され、西高生の文化・芸術の「祭り」をともに楽しんでいただきました。

この、限られた時間・予算・環境の中で、高校生がはっとするような創造性を発揮するのを見ると、「制約に負けることから独創が始まる（隈研吾）」「創造は、逆境の中でこそ見いだせるもの（安藤忠雄）」という著名な建築家の言葉を思い出します。建築家も、予算や立地条件、気候風土などといったあらゆる制約の中で、クライアントの要求にいかに応えるかが腕の見せ所です。抗えない制約は、むしろうまく利用して解決策を考えようとするとき、そのプロセスにおいて予想を超える新しい発想や表現が生まれるものだ、ということでしょう。制約や逆境に引き出されるであろう自分たちの未知の力を信じ、期待する、そんな言葉です。

「梓」といえば、もうひとつ思い出す話があります。東日本大震災の後、深い悲しみの中にいた子どもたちは、周りの大人や友達の前ではつらい心を表現することにためらいを感じて言葉にできませんでした。そこである人が俳句を詠んでみよう、と呼びかけてみたところ、それまで心の中に閉じ込めていた思いを次々と紡ぎ出していったのだそうです。五・七・五という定型の「梓」が子どもたちの心を解き放した、なんとも逆説的で印象的なエピソードとして私の心に残っています。

体育大会、西高祭ともに、様々な制約という「梓」が創造性を刺激し、これまでになかったアイデアを生み出しました。そして「梓」の中で日ごろの思いを表現し、心を自由にしました。とても大事な経験であり、財産です。日々、何かしらの制約の中にいて、時に逆境に陥りながらもたくましく生きてゆく私たち。この経験をこれからの生活に大いに役立ててください。

さて、3年生は受験まで残り〇〇日という「梓」がはっきりしています。自身の持つ力を最大限に引き出せるよう、頭はクールに心は燃やして集中し、とことんやる。やれるはず。どんな問題にも「よし、面白くなってきたぞ!」という気持ちで臨めば、確実に学力を高めていけます。西高祭のステージに突如現れた年上の勇者たちの、「私たちがついていきます!」という言葉の励みにして。

## 佐世保西高等学校 第2回オープンスクール

9月13日（土）に、本校の「第2回オープンスクール」が西高祭の2日目に併せて開催されました。今回は先着100名限定のオープンスクールとなりましたが、地区内外あわせて26の中学校から応募が殺到し、応募開始からわずか2日で定員が埋まってしまいました。

当日は、西高祭のオープニング見学や学校説明会、希望者限定の生徒実行委員による西高祭ツアーを通して、在校生と一緒に西高祭を楽しんでいただきました。

参加者アンケートでは「文化祭オープニングを体育館で見たとき西高生の盛り上がりがとてもすごくて一緒に楽しむことが出来ました。」「生徒が主体となって行事を運営しているところが魅力的だと感じました。」など、ご満足いただけた声が得られました。（教務部）

## 主な試合などの結果

### <弓道部>

○令和7年度長崎県高等学校佐世保地区新人体育大会弓道競技  
男子個人 準優勝 1年 合原直哉

### <コーラス部>

○第92回 NHK 全国学校音楽コンクール 九州沖縄ブロック大会  
奨励賞

○第39回ながさき“若い芽”のコンサート オーディション  
優秀賞 2年 北村心彩

※10月25日（土）14時～ 浦上天主堂にて開催される  
本番に出演が決定しています。

○第80回九州合唱コンクール  
金賞



## <10月の主な行事予定>

|           |   |                                           |
|-----------|---|-------------------------------------------|
| 9/29～10/2 |   | 前期期末考査                                    |
| 9         | 木 | 大学入学共通テスト100日前集会（3年）<br>長崎大学 高大連携講義体験（1年） |
| 10        | 金 | 前期終了日                                     |
| 10/11～14  |   | 秋季休業日                                     |
| 15        | 水 | 後期始業式・後期各種委員任命式・受納式                       |
| 23        | 木 | 文理別課題研究発表会（1・2年）                          |

SUZUSIKUNATTAYO



BENKYOU syu-chu、

## 体育大会 9/6（土）

今年度の体育大会は昨年度同様に午前・午後の二部構成で実施しました。

開催直前の台風接近による悪天候の心配もありましたが、当日は絶好の体育大会日和となり、夏の暑さに負けない最高の体育大会となりました。

一方、近年の気温上昇により、生徒・教員・観覧される保護者の体調等を考慮する必要性を改めて感じました。

来年度の体育大会に向けて開催時期や開催場所等について検討を重ねていきたいと思います。

保護者や一般の皆様にもご来場いただき、生徒の一生懸命な姿をお見せすることができました。

ありがとうございました。

【結果】（総 合 の 部）優 勝 黄ブロック(3-1, 3-2, 2-1, 2-6, 1-1, 1-2)

準優勝 赤ブロック(3-5, 3-6, 2-2, 2-5, 1-5, 1-6)

（応 援 の 部）優秀賞 青ブロック(3-3・3-4)

（のぼりの部）優 勝 黄ブロック

【結果】（クラス対抗リレー） 1 年 1 位 男子6組 女子3組

2 年 1 位 男子3組 女子5組

3 年 1 位 男子2組 女子6組



黄ブロック



赤ブロック



青ブロック



## 西高祭 9/12（金）、9/13（土）

今年度の西高祭は、9月12日（金）にプレオープン、13日（土）に一般公開として開催しました。有志組織である「西高祭実行委員会」が企画・運営を行う初めての西高祭で、様々なことに挑戦しました。西高祭実行委員会は「セレモニー班」「マネジメント班」「メディア班」「テクニカルチーム」で構成され、明確な役割分担の下で、準備の段階から生徒たちは全力で取り組みました。

テーマを『勇者』とし、西高生が色々なことに勇気をもって踏み出せるようになって欲しいという願いを込めました。実行委員長の山下侑くん（2年4組）も、グランドフィナーレで次のように語っています。

「自分は、人前に出ることがあまり得意ではありません。実は、去年は西高祭に参加することができませんでした。その悔しさや、2年分楽しみたいという想いから、この西高祭が挑戦できる最後のチャンスと信じ、実行委員長に立候補しました。テーマを『勇者』と設定したのも、このように自分が勇気をもって挑戦したいという気持ちがあったからです。ただ、自分だけではこんなに素晴らしい西高祭を作り上げることは出来ませんでした。ここにいる西高祭実行委員の仲間が、この4ヶ月間西高祭をよりよくしたいと毎日考え、勇気を持って挑戦してくれたおかげです。僕のことを信じ、最後まで付いてきてくれました。本当に心から感謝しています。

最後に、西高祭がみなさんの心に何かを残してくれたなら、これ以上の喜びはありません。

西高祭に関わった全ての人たちに、最後に感謝の気持ちを伝えさせてください。

ありがとうございました。」

今後とも、生徒会活動へのご理解及びご支援の程、よろしくお願いいたします。

（生徒会）



### ●クラス参加部門

GOLD WEST 賞 2年1組 合唱

SILVER WEST 賞 2年4組 展示

### ●ポスター部門

最優秀賞 2年3組

優 秀 賞 2年1組